



2021-J3

MICS実験第一 レポート

課題 J 3

学籍番号	
氏名	
提出日	月 日 ()
提出期限	月 日 ()

1 目的

課題の目的を説明し、どのようなプログラムを実現するかを説明する。

J3 課題の場合は、「Java のオブジェクト指向の特性を生かした機能の拡張が容易なドローエディタの作成」が目的である。加えて、各自、どのような機能を持ったドローエディタを作るかここで説明せよ。

2 設計方針

プログラムの基本構想

どのようなアルゴリズム、データ構造を用いて、目的の処理を実現するのか説明する。なぜ、そのようなアルゴリズム、データ構造を用いたかという考察も含める。ここでは、プログラムの細部には触れない。

J3 の場合は、どのようなクラスを用意して、どのように利用するかを説明する。クラス図を使用すると良いでしょう。

例を 図 1 に示す。

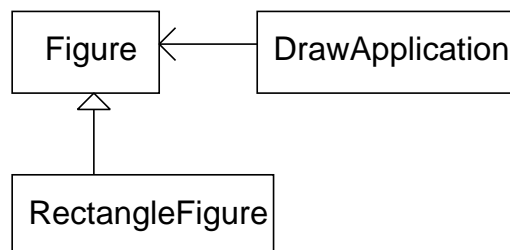


図 1: 例. クラス図.

3 プログラムの説明

J3 の場合は、作成したすべてのクラスの説明、クラス同士の関係、実際に作成した各クラスの主な公開メソッド、公開フィールドの説明を行う。必要に応じてプログラムリストを抜粋して説明する。

4 実行例

実行画面を示す。結果のみでなく、分かりやすく説明する。

必要に応じてグラフや図などを用いる。

例を 図 2 に示す。

課題 J3 の場合は、グラフの代わりにスクリーンショットをつけて、説明すること。

5 考察

実行結果に対する考察、コメント。

J3 の場合は、実現したプログラムに対する考察、今後の改良点、Java や課題 J3 に付いての感想を述べよ。

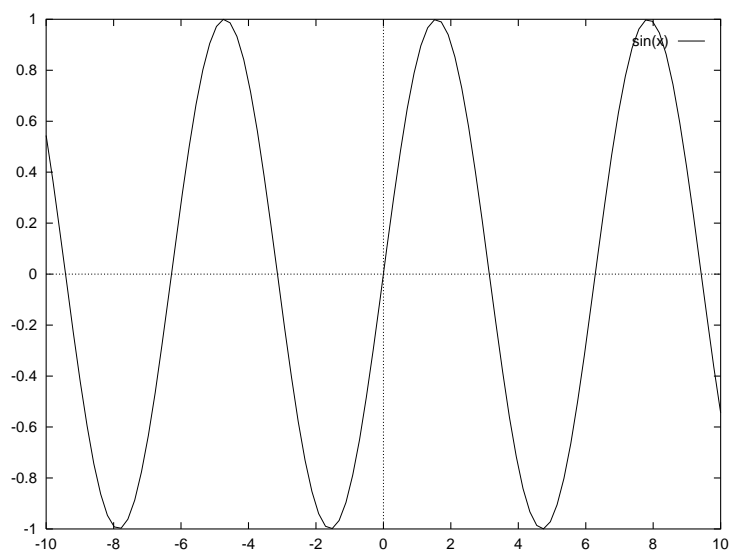


図 2: 例. $\sin(x)$ のグラフ.

6 付録

プログラムリストが2ページ以上になる場合は、本文中に含めないで、最後に付録として付けるほうが読みやすい。

`cat -n hash.c` などとして、行番号付きのプログラムリストを生成して、`\begin{verbatim}....\end{verbatim}` を用いて記述すると読みやすい。ページ数が多くなる場合は、`\small` や `\footnotesize` を用いるとよい。

```

1 struct item* insert(struct item s){
2     int i; struct entry *p, *chain;
3     i=h(s.key);
4     chain=H[i];
5     if(chain){
6         while(chain && comparekeytype(chain->term.key, s.key)) chain=chain->next;
7         if(chain) return &(chain->term); /* 同じ鍵が見つかった 場合*/
8     }

```

レポート作成のためのチェックリスト

課題J3: Java

提出前に○×を記入すること

- ※ 課題の目的と、実現すべきプログラムが何であるのかが書かれているか？ ()
- ※ どのようにプログラムを設計しようとするのか，その設計方針について書かれているか？ ()
- ※ 作成したプログラムの構成が（独立した文章で）分かりやすく書かれているのか？ ()
- ※ 結果の検討や考察が明確に書かれているか？ ()
- ※ レポートの出来の自己評価は？
(最高を5とした5段階評価:)